

# 「報恩感謝」「助け合いの精神」

## 御坊市顕彰イベント

御坊市名誉市民第1号で東京にオリンピック(1964年)を呼んだ男として有名な故・和田勇氏の顕彰イベントが17日、市民文化会館で開かれ、関係者や市民ら250人が出席。二女のメアリー・マリコ・ロー

スさん(77)を特別ゲストに迎え、岡本恒男・和田勇顕彰会事務局長らがパネルディスカッション。幼少期に過ごした御坊での実体験で養われた「みんなが協力し合い、成果を分かち合う」「恩に報いる」との報恩

感謝、助け合いの精神を学び、広く顕彰することを誓い合った。パネルディスカッションは市文化財保護審議会委員の大谷春雄氏をコーディネーターに、パネリストのマリコさんが両親の勇氏、正子さんの生い立ちやエピソードなどをスピーチ。岡本氏、和歌山市のNPO法人わかやまスポーツ伝承館事務局長の畔取由佳さんが知ってほしいこと、学ぶべきことを話した。

助け合いの精神を培ったのは、勇氏が幼少期に過ごした父の実家・御坊市名田町被井戸、母の実家・由良町戸津井での実体験にある。「村中の人が協力して魚を捕り、捕れた魚はみんなで公平に分かち合った、このことが父の人格形成に大きな影響を与えた。父と母が口癖のように和歌山、御坊の人は良い人でみんな協力し合い、成果はみんなに分かち合つと言っていた。父と母はその通りに生きた」と話した。

手権大会に参加した古橋廣之進氏ら日本選手団を自宅に泊めて献身的に世話したこと、東京オリンピックを誘致するため私費を投じて夫婦で中南米諸国を回ったこと、日本の大手企業のアメリ力進出のきっかけづくりに奔走したことなどすべては「戦後荒廃した日本にショックを受け、日本を助きたい、立ち直るまで支援したいとの一心で行った」と話した。

第一部は「東京にオリンピックを呼んだ男」1964年から2020年に繋ぐ」をテーマに大谷氏が脚本、舞台演出を手がけた音楽朗読劇を行った。二胡演奏、映像を盛り込みながら約40分間、和田勇夫妻の生涯を紹介した。



和親の思い出やエピソードを語るマリコさん(左)

## 和田夫妻二人三脚の人生に学ぶ

マリコさんは「和田家は10人の大家族。家には父母を頼った親戚や知人でいつもいっぱい。父は働き者で温かくもあり、気難しい人だった。ピアノを弾き、歌を歌ってくれる時が一番近くに父を感じられた」と思い出を語り「母は常に父のそばにいて父のことを理解していた。父も何事をするにも母に相談して決めていた。母の支えなしに父の成功はなかった」と夫婦二人三脚の人生を語った。

戦後間もない全米水泳選

岡本氏は「和田勇氏は天才であり、大変な努力家。正子さんは温厚で優しく、人を包み込むような方。二人三脚があったからこそ様々な偉業をなした。お二人の生き方を多くの人が知ってもらいたい」、畔取さ

んは「日本人の誇り、恩を大切にしたい人。和田勇氏の生き様を学び、希望が持てる心豊かな社会づくりを進めたい」と話した。

第一部は「東京にオリンピックを呼んだ男」1964年から2020年に繋ぐ」をテーマに大谷氏が脚本、舞台演出を手がけた音楽朗読劇を行った。二胡演奏、映像を盛り込みながら約40分間、和田勇夫妻の生涯を紹介した。